

## 理事長室から

木下 統晴



## 不思議な縁のつながり

私が横浜から熊本に来たのが、熊本地震の2カ月後、余震が続く2016年6月でした。重大な化血研問題の解決に、少しでもお役に立てればと思って参りました。2017年に化血研理事長、翌年の2018年にその問題も一応の解決に結びつけました。この2年間は、前に勤めた明治製菓の仕事の30年分に相当するかと感じるほどの激務でした。そして、2021年からは本学の理事長を兼務しています。

この3月1日には第1回QAフォーラム（東京）で講演します。その際、化血研の血は血清療法だと強調したいと思っています。北里柴三郎博士が36歳の1889年に破傷風菌の純粋培養に成功、翌1890年に血清療法を開発されています。北里博士は、多くの感染症と闘い、世界の膨大な数の人命を救われた熊本の偉人です。

今年は北里柴三郎イヤー、博士の肖像が載る1000円札が7月3日に発行されます。

そして今、本学の高橋元秀特命教授は、破傷風の研究をなされています。現代の科学で取り組むと新しいことがどんどん見えてきます。北里博士の発見から135年の時を経て、新たな科学を用いた研究は面白いです。その抗毒素は、世界で必要とされています。私たち日本の殆どの高齢者が破傷風の抗体を持っていません。とてもリスクがあるのです。

最後に、1889年と言う年、北里博士の破傷風菌の純粋培養、熊本城が被害を受けた明治熊本地震発生、本学の母体、化血研創業者の太田原豊一博士の誕生年でもあります。

講演のために調べたことで、不思議な縁のつながりを感じました。

## 看護学科「キャリア教育セミナー」

## 81施設と質疑応答

看護学科2・3年次生を対象としたキャリア教育セミナーを2月8日（木）～9日（金）に開催しました。さまざまな施設の情報収集を通じて、職業適性やキャリアについて考えることが目的。Zoomを用いたWebリアルタイム形式で行い、九州内外から計81施設が参加しました。

各施設からの業務内容や教育体制に関する説明の後、チャットを用いて学生と施設の担当者との間で活発な質疑応答がなされました。施設によっては本学卒業生からも説明があり、活躍する先輩の姿に、学生たちは大きな刺激を受けた様子でした。

3年次生はいよいよ就職活動が始まります。今回のセミナーをきっかけとして、積極的にインターンシップや説明会に参加し、第1志望の内定獲得に向けて「主体的に行動」し成就させてもらいたいものです。

(就職・実習支援課)

## 医学検査学科「職種紹介」

## 12病院・企業が参加

医学検査学科の3年次生を対象とした職種紹介を2月13（火）、14日（水）に行いました。医学検査学科就職委員と就職・実習支援課スタッフが連携し、毎年実施しています。臨床検査技師の資格を活かすことのできる幅広い職種を知ることが目的として、12の病院・企業で活躍する人たちが、業務内容やキャリアパス等の紹介をしました。

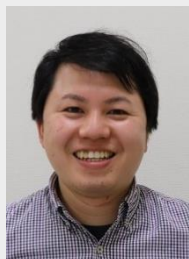
このうち、日本赤十字社熊本健康管理センターに勤務する松本直三さん（本学13期生）は、人生100年時代を見据え、健康寿命延伸のために日々健診業務に邁進する様子を語りました。また、健診施設において臨床検査技師がその役割を果たすためには、①正確かつ迅速な技術力、②コミュニケーション能力、③企画力・プレゼン力・改善能力が求められているということ、後輩たちに向けて示しました。2日間得た新たな気づきを、今後一人ひとりの進路選択に活かしてくれることを期待します。

(就職・実習支援課)

就活に向け準備怠りなく

# 運動イメージ能力 個人差の要因追求

生活機能療法学専攻・小手川講師 国際ジャーナル誌に論文掲載



リハビリテーション学科生活機能療法学専攻の小手川耕平講師=写真=の視空間ワーキングメモリ（作業記憶）と歩行運動イメージの関連についての研究論文が、Elsevier系国際ジャーナル誌Human Movement Scienceに掲載されました。

研究は、運動イメージ能力における個人差の要因を、行動学的な視点から明らかにすることを目的としています。小手川講師は、運動イメージの個人差が視空間ワーキングメモリ能力と関連している可能性があることを明らかにしました。

運動イメージの活用はリハビリテーションの方法として有用といわれています。小手川講師は、運動イメージ能力の個人差を脳活動と行動学的な視点から明らかにすることができれば、個人差に合わせた運動イメージリハビリテーションを提供できると考えています。例えば、運動イメージが苦手な人に対してはバーチャルリアリティ（VR）等のデバイスを用いて、映像を見ながらその動作をイメージしてもらうような応用が考えられるということです。（入試・広報課）

※小手川講師の論文「Association between visuo-spatial working memory and gait motor imagery（邦題：視空間ワーキングメモリと歩行運動イメージの関連）」は、以下のURLで3月20日まで閲覧できます。

<https://authors.elsevier.com/a/liYldcBxfE7TJ>

## 「筋力」学びトレーニングに応用

### 鹿本高生、機器使った測定も体験

鹿本高校スポーツ健康コースの1年生30人が2月19日（月）、本学を訪れ、講義と演習を通して「筋力」について学びました。本学と熊本県高等学校体育学科・コース連絡協議会との包括連携協定に基づく取り組み。

講義では、松原誠仁教授（健康・スポーツ教育研究センター）が「筋力とは何か？」と題して解剖学的特徴や生理学的特性、筋力トレーニングの基礎について解説。講義終盤には、生徒たちが取り組んでいる課題研究に関して、テーマの設定から方法論まで様々なディスカッションが行われました。

演習では5グループに分かれ、実際に筋力測定機器を用いて膝関節の筋力を測定。その後、得られた結果の解釈にチャレンジしました。中にはトレーニングへの応用を考えるグループも見られるなど、生徒たちは熱心な取り組みを見せ、「筋力に対する考え方が変わった」、「実際に体験することができて楽しかった」などと感想を口にしていました。

（入試・広報課）

筋力測定機器を用いて膝関節筋力測定をする生徒たちと松原教授（右）

## 银杏アラカルト

■北部中生徒がインタビュー 北部中学校の1、2年生6人が2月21日（水）、本学を訪れ、「ストレスと勉強の環境」をテーマに看護学科の荒木善光講師と同学科4年生2人にインタビューなどを行い、学びを深めました。「総合的な学習の時間」の一環。健康コースを選択した生徒たちは、テーマも自分たちで決め、この日の訪問となりました。同校の古家華凜養護教諭は「荒木先生からストレスのメカニズム等を教わった後、学生さんから中学時代に行っていた勉強法やストレス解消法を聞くことができました。経験をもとに語られる言葉が、生徒の印象に残ったようです」と語っていました。（入試・広報課）



北部中の生徒とテーブルを囲みインタビューに応じる荒木講師（奥）

週間行事予定（3月5日～11日）

3 / 6（水）

第2回FDセミナー

（13:00～ 3108・3109・3110M講義室）